



静岡の茶草場農法

世界農業遺産

しずおかのちやくわいのほしゅう

茶草場農法とは、茶樹に有機として投入するササキやススキなどの草を刈り取った半日草を「茶草」として茶葉の堆肥の代わりに用いる農法です。茶草は茶葉の堆肥の代わりに用いることで、茶葉の品質を向上させる効果があります。また、茶草は茶葉の堆肥の代わりに用いることで、茶葉の品質を向上させる効果があります。また、茶草は茶葉の堆肥の代わりに用いることで、茶葉の品質を向上させる効果があります。

茶草場農法の特長：
 ● 茶葉の品質を向上させる効果がある。
 ● 茶葉の堆肥の代わりに用いることで、茶葉の品質を向上させる効果がある。
 ● 茶葉の堆肥の代わりに用いることで、茶葉の品質を向上させる効果がある。



手摺と呼ばれる茶の種田
 静岡県の茶の産地である静岡市清水区にある「手摺」は、茶の産地として知られています。ここでは、茶の産地として知られています。ここでは、茶の産地として知られています。

<p>厚焼きたまご お茶の香りとたまごの風味が絶妙な組み合わせです。</p>	<p>お茶の香りがたまりません。 お茶の香りがたまりません。</p>	<p>お茶の香りがたまりません。 お茶の香りがたまりません。</p>	<p>お茶の香りがたまりません。 お茶の香りがたまりません。</p>
<p>お茶の香りがたまりません。 お茶の香りがたまりません。</p>	<p>お茶の香りがたまりません。 お茶の香りがたまりません。</p>	<p>お茶の香りがたまりません。 お茶の香りがたまりません。</p>	<p>お茶の香りがたまりません。 お茶の香りがたまりません。</p>